



## 平成29年度初期臨床研修医マッチング結果について

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 山口 高史

(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター院長)

平成29年度の初期臨床研修医のマッチングは、昨年より募集定員で3名、マッチ者数で6名増加し162名となり、4年連続過去最多の研修医とマッチングすることができました。また、マッチ率でも74.3%と好成績でした。一方、研修希望のなかった病院が前回より1病院増えたものの、傾向としては、昨年同様、従来希望者のなかった研修病院にも、初期研修医がマッチし、平準化する傾向があります。また、地域的にも県央、県北により多くの研修医がマッチし、地域的にも平準化する傾向があります。これは医師不足の当県にとって、喜ばしいかぎりと思っています。

一方、後期研修では日本専門医機構で見直しが行われ、来年度より実施するために各プログラムの募集が開始されました。そして、本県でも数多くのプログラムが認定され走り始めています。まだ流動的な部分は多少ありますが、これらは決して初期研修と切り離されたものではなく、今後、初期研修対象者がどこで初期研修をしたらよいかということを考えるうえで、非常に重要な要素となります。良い初期研修を受けることが、より良い後期研修を生みます。

教育病院の皆様も、初期研修から後期研修にスムーズに移行できるような配慮が今まで以上に必要となると思われるので、本県の初期臨床研修環境をよりよく整備するとともに、後期研修への移行をよりスムーズに行えるよう関係各位のご協力をお願いいたします。

### 臨床研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成29年度						平成28年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	11,014	4,759	6,255	9,023	3,738	5,285	11,195	4,854	6,341	8,906	3,806	5,100
茨城県	218	98	120	162	75	87	215	98	117	156	82	74

## 平成29年度茨城県臨床研修病院合同説明会を開催します！

医学生の皆さんの情報収集の場を提供するため、茨城県の臨床研修病院が一堂に会し、平成31年度採用向けの合同説明会を開催します。全国屈指の充実した指導体制と魅力あるプログラムをご紹介します。皆様のご参加をお待ちしております！



**日程** 平成30年3月11日(日) 13:00~17:00

**場所** イーアスホール  
(つくば市研究学園5-19 イーアスつくば2階)

**内容** ●各病院プレゼンテーション  
●病院ブースによる個別相談 等

**対象** 医学生

**申込方法**

○FAXまたはE-mailにてお申し込み

「合同説明会参加希望」と明記のうえ、下記あてお申し込みください。

※記入事項：「氏名」「ふりがな」「大学」「性別」

「学年(4月からの新学年)」「出身都道府県」

○Webにてお申し込み

茨城県地域医療支援センターのホームページから、  
いばらき電子申請フォームによりお申込みください。





# 「遠隔地と大学を専用回線で結びリアルタイムに対応する遠隔治療サポートで、県全体の医療提供体制を充実していきたい」

平成29年9月から始まった筑波大学と神栖済生会病院を結ぶ全国初の「遠隔治療サポート」について、筑波大学医学医療系循環器内科学教授の青沼和隆先生にお話を伺いました。

## …遠隔治療サポートとは、どのようなシステムなのでしょう？

約70キロ離れたつくば市の筑波大学附属病院と、神栖市の神栖済生会病院とを高速・高セキュリティの回線で結び、経験豊富な筑波大学の専門医師がモニターの画像と音声を視聴しながら、音声とタッチパネルで指導し、神栖済生会病院の医師が治療をするというものです。急性心筋梗塞、あるいは狭心症等で救急搬送され、その場で治療しないと死に至る可能性がある重篤な患者さんの血管内治療、あるいはカテーテルアブレーションによる不整脈の治療を、このシステムを用いて行っています。

今までは、鹿児島県あるいは長崎県等の離島において、CTの画像を専門医に送り、患者さんをドクターヘリで運ぶかどうかを診断する様な遠隔診断はありましたが、静止画であって、双方向の音声画像送信システムではなく、一方向的なデータの送信ですから、治療には介入できませんでした。今、我々が用いているシステムはリアルタイムで動画と音声を送られて来て、現場から遠く離れた大学で治療に参画できるというメリットがあります。今まで離島医療で行われた診断の補助とは全く違うもので、遠隔治療サポートと言っています。

## …遠隔治療サポートを始められたいきさつは？

私たちは、大学でしか行えないような高度医療を県内全域で皆さんに受けていただくということを目的として、茨城県やJAなどの協力を得て、8年前から筑波大学地域医療教育センターを県内に設置しています。ただやはり、大学と同程度の医療を行うには様々な課題が山積しております。また、大学から出向した医師が、地域の病院で大学と同等の教育を受けられるようにするにはどうしたらよいか、あるいは大学の十分なバックアップ体制の元で治療がなされるのかといったことや、やはり、医療というのは各医師の技量や能力、技術等に差があるため、いくら大学の医師が沢山出向いたからといって、同じことができるということはありません。私はかねてから、そういった点をもう少しサポートする必要があると思っておりました。

それから、もうひとつは、大学から外に出て行った医者は、自分でいろいろな目的を見つけて自分から積極的に地域医療に

筑波大学医学医療系  
循環器内科学  
教授 青沼 和隆



取組む、いわゆる自己解決型の医師も沢山いると思いますが、大学から医師不足地域へ出向して、孤立感を持つ人もいます。

大学にいれば、手術をしている時に、我々が横から見ながらいろいろサポートしてあげられるのですが、派遣先でも全く同じことができれば、医者への孤立感も解消されます。指導医がそこに行かなくても、大学で全く同じ画像を見ながら治療を補助することによって、同じ手術室に立ち会って治療をしているのと全く同じ環境になります。地域に出向している医師の教育にもなりますし、患者さんも大学病院と全く同じ治療が受けられるメリットがあるわけです。それには、遠隔治療サポートが有効と考え、今回我々が始めたところです。

## ●県内で最も医師が少ない神栖地域をバックアップ。

### …神栖地域は必要性が高かった地域ですか？

茨城県というのは、人口10万人あたりの医師数が非常に少ない県で、全国で46番目、下から2番目です。その中でもつくば、土浦などの県南地域は比較的医師が多いのですが、一番少ないのが神栖市を含む鹿行地域です。

一方で、茨城県の製造品出荷額は全国第8位で、そのほとんどが鹿島コンビナートがある鹿行地域に集中しています。医師数の全国平均は244.9人(H26)ですが、鹿行地域の人口10万人あたりの医師数は90人程度で全国平均の3分の1強であるわけです。工業地帯で人口密度が高く、住んでいる人が沢山いるけれども、実は医師が非常に少ないということで、神栖の地域に導入する事で、メリットが高いのではないかと考えました。

それと同時に、神栖済生会病院と鹿島労災病院が、茨城県と神栖市のバックアップを得て再編統合するということが決まり、そこに医師を増員して欲しいという意向があり、それであれば我々が常に見守ることができる遠隔治療サポートをぜひ導入していただきたいというお話を差し上げたところ、県、市、神栖済生会病院の方も、それは素晴らしいことだと合意に至って実現しました。今後、循環器内科としては全面的にバックアップしていくことにより、神栖済生会病院と周辺の病院が連携をして、地

域医療の充実をしていければと思っています。

また、神栖地域は心筋梗塞の死亡率が全国平均から比べて非常に高いのが現状です。それを考えると、急性期の命に関わる治療に関して、特に意義が高いのではないかと考えています。今日でなく明日治療すればいいという病気でしたら、筑波大学附属病院に来ていただいて治療ができますが、心臓というのは、非常に緊急性が高い分野ですから、現地で診断治療ができることが非常に重要だと思います。合併症や偶発的なトラブルも、経験のある指導医の後ろ盾によって軽減可能であり、より良い治療に対して、様々な選択を取ることでもあります。

9月の開始からこれまでに救急で運ばれた方の不整脈の治療を4例、冠動脈血管内治療を10例行っています。

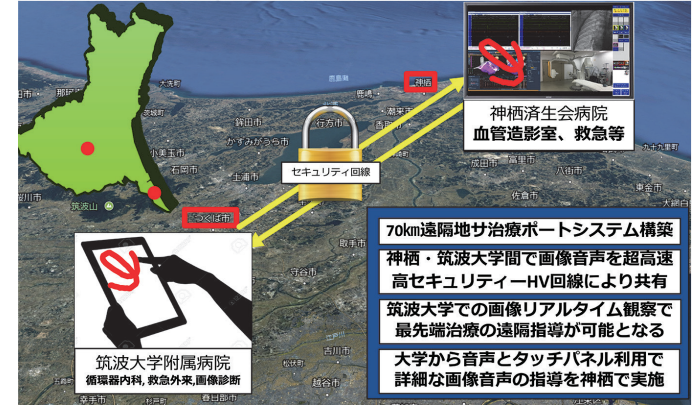
## ●遠隔治療サポートという新しい医療モデルを茨城県から全国に。

### …循環器内科の今後の展望はいかがでしょう？

新卒後研修制度が始まって10年を過ぎていますが、来年度から新専門医という制度が始まります。そういう中で見えて来たことは、多くの若い先生が都市志向であるということです。それも大都市に集中しています。しかしながら筑波大学をはじめ、毎年60人から70人の若い先生が茨城県にきています。そういう地域の医療に貢献したいという高い志を持つ人は確実にいるのです。そういう先生方をいかに我々が育てていくかということが非常に重要です。なおかつ定時で仕事を終わりたいという人が多い、また、救急以外の科がいいと言う医師が沢山います。そうしたなかでも循環器に進んでくれる方もいるわけです。そういう方を大事にして、早く一人前になれるように育成していく事が重要な役目です。地域の基幹病院、あるいは大学病院から離れた場所で研修できるようにするためにも、よりよい研修環境・教育環境を整備し、大学だけではなく、県全体の医療を遠隔治療サポートでより良くしていきたいと考えています。

今後は、県北の日立、高萩、北茨城、あるいは新しく筑西市に整備される県西部メディカルセンターなど県内各地とのネットワークの可能性を探りたいと考えており、筑波大学、県立中央病院、土浦協同病院なども一体となって非常に大きな医療革命のうねりをこの茨城から起こしていければと思っています。

こういう医療モデルが茨城県でできれば、同じように困っている地域、例えば北海道、島根、鳥取、離島を抱えている鹿児島、長崎でも可能性が広がります。地域の医療再生が声を大きく叫ばれていますが、このシステムでひとつの光明が見いだせる可能性があります。遠隔治療サポートシステムは、循環器だけではなく救急医療、あるいは消化器、画像を元にした治療、あるいは小児医療にも応用できると考えております。



## …茨城との関わりは、いつごろからでしょうか？

昭和53年に土浦協同病院に、研修医第一号として行ったのが始まりです。1年間させていただきましたが、その当時最新鋭の病院で、所属する東京医科歯科大学以上に設備が整っていました。大学に戻り、次に取手協同病院に循環器専門医第一号として赴任しました。その後、大学の関連病院出の勤務や、留学を経て、再び土浦協同病院に昭和61年に戻って4年間、不整脈の専門医として勤務していました。そういうことで、茨城県とは非常に縁がありました。その後もいろいろな繋がりがあり、筑波大学に来させていだいてもう14年になります。今までの人生でトータル20年間茨城にいますが、茨城の患者さんというのは、本当に純粋で医師に対する信頼というのが厚いです。だからこそ、医師としてしっかりやらなければならないなと思っています。

## ●二つの道があったら険しい方を選べ。

### …最後に若手医師、医学生に向けてメッセージをお願いいたします。

新人医局員の皆さんによく言う言葉ですが、私以外にも多くの先人が発しておられます。たとえば本田技研の創業者の本田宗一郎様、松下電器の創業者の松下幸之助様、筑波大学の名誉教授である江崎玲於奈先生もおっしゃっています。言葉は少しずつ違うのですが、偉大な先人のメッセージの意味はほとんど同じことで、「二つの道があったら険しい方を選べ、それによってあなたの人生はより実りのある人生となるだろう」という言葉です。都会で仕事をするのもいいですが、地方に出て困難に立ち向かって行く道もある。人生の幸せとは何かを考えると、そういうことも重要ではないかというメッセージを送りたいと思います。

## 病院紹介 コーナー

独立行政法人  
国立病院機構 水戸医療センター

(茨城県東茨城郡茨城町桜の郷280番地)



治療方針の決定を各関連科が集まり皆で議論して方針を検討しています。研修医は、治療に難渋した症例を学会地方会などで発表することもあります。外国人講師を当院に招待して、症例のプレゼンテーションを行う機会もあり、他、国立病院機構が主催する“良質な医師を育てる研修会”が、年18回全国各地で開催され、全国から参加している研修医と交流できる機会もあります。

新専門医制度が始まり、当院でも、内科、外科とも専門医制度基幹病院として認定され、今後も当院で後期研修医を受け入れていきます。

当院での研修をご希望の方は、是非一度ご見学にいらして下さい。

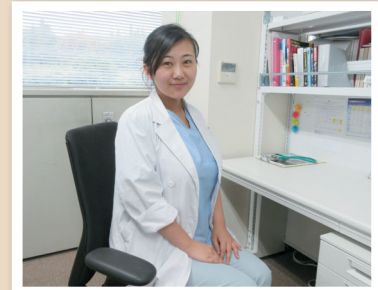
## 研修医リレーエッセイ

牛久愛和総合病院

初期研修医1年目 田崎 愛理

今年の4月から研修が始まり、瞬く間に季節が移り変わってゆきました。最初の頃と比べ、仕事にも慣れ、充実した研修生活を送っています。

牛久愛和総合病院は地域に根付いた基幹型病院です。コモンディーズを含む幅広い症例に出会えます。救急に力を入れている一方、一人一人の患者と向き合う時間もしっかりとあり、「患者さんのための医者」である自分を常に再認識させられます。一般的な内科疾患は輪番制であり、どの科にいても総合的な診療力が身につきます。さらに各科の垣根が低く、気軽にコンサルト出来るのは勿論のこと、興味深い症例があった場合は他科の患者さんでも一緒に診ることができず。



少人数での研修ですので、一人一人の研修医が大事に育てられていると常に実感して

います。カリキュラムを含め様々な要望にフレキシブルに対応して戴いております。指導医も教育熱心な方が多く、診療に必要な知識や技術が身につきます。さらに、自主性も求められるため、自分で考える力も確実に培われていきます。そして何より当院の特徴といえば、アットホームな雰囲気でしょう。先生方をはじめ、コメディカルも親切な方が多く、気持ち良く働けます。毎日仕事に行くことが楽しみです。研修先をお探しの学生さんにはぜひ一度、見学にお越しいただきたいと思ひます。



# 三師調査結果について

本県の医師総数は、2年前の調査と比較して325人増(増加率6.3%)の5,513人で、前回同様の全国15位、人口10万人対医師数は、12.1人増(増加率6.8%)の189.8人で前回同様の全国46位となっており、依然として“医師不足”の状況にあります。また、二次医療圏別での医師数(表1)をみても、地域偏在が顕著となっております。

そういった中、医師の増加率は40代を除く全ての年代で全国平均を上回っており、特に20代、30代の医師の増加率は、ともに全国6位(表2)であり、非常に高いものとなっております。地域医療支援センターでは、引き続き先進的で魅力ある研修会の開催や修学生医師のキャリア形成支援により、県内への医師の定着に努めてまいります。

●二次保健医療圏別医師数(表1)

二次保健医療圏	医師数(人)							
	届出医師数				人口10万対			
	H28	H26	増減	増減率	H28	H26	増減	増減率
茨城県	5,513	5,188	325	6.3%	189.8	177.7	12.1	6.8%
全国	319,480	311,205	8,275	2.7%	251.7	244.9	6.8	2.8%
水戸	1,112	1,041	71	6.8%	238.3	221.5	16.8	7.6%
日立	396	390	6	1.5%	154.8	150.6	4.2	2.8%
常陸太田・ひたちなか	388	396	△8	△2.0%	108.2	109.2	△1.0	△1.0%
鹿行	262	248	14	5.6%	95.7	90.7	5.0	5.5%
土浦	563	521	42	8.1%	218.8	199.7	19.1	9.6%
つくば	1,400	1,226	174	14.2%	410.4	369.6	40.8	11.0%
取手・竜ヶ崎	796	797	△1	△0.1%	171.4	170.2	1.2	0.7%
筑西・下妻	277	269	8	3.0%	105.6	101.3	4.3	4.3%
古河・坂東	319	300	19	6.3%	140.3	130.6	9.7	7.4%

※全国及び県人口総数 資料:「平成28年10月1日現在推計人口」総務省統計局 市町村別人口 資料:「茨城県常住人口調査結果報告書(平成28年10月1日現在)」茨城県企画部統計課

●年代別医師増減比較(表2)

	20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位	増減数	増減率	順位
全国	1403	5.3%		▲66	▲0.1%		485	0.7%		▲548	▲0.8%		6889	15.1%		253	1.3%		▲141	▲1.2%	
茨城	78	15.8%	6	47	4.4%	6	4	0.3%	20	11	0.9%	9	161	21.2%	3	18	5.6%	14	6	3.4%	16

## 茨城県からのお知らせ

### 平成30年度自治医科大学医学部 入学試験のご案内

自治医科大学医学部第1次試験を行います。受験を希望される方は、下記により出願書類を提出してください。

#### 出願期間

平成30年1月4日(木)～1月17日(水) 午後5時必着  
※消印有効期限は1月16日(火)

#### 出願書類の提出先

〒310-8555  
茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県保健福祉部医療人材課  
電話 029-301-3191(直)

#### 提出方法

書留速達郵便、または簡易書留速達郵便にて提出して下さい。

#### 第1次試験

学力試験 平成30年1月22日(月)  
面接試験 平成30年1月23日(火) ※学力試験及第者のみ実施

#### 試験会場(両日とも同じ)

茨城県庁(茨城県水戸市笠原町978-6)

#### 第1次試験合格発表

平成30年1月26日(金) 午後1時

#### 第2次試験日・合格発表日

※第2次試験は、平成30年2月1日(木)に自治医科大学で実施します。  
(第2次合格発表日 平成30年2月9日(金) 午後5時)

### 平成30年度医師修学資金 貸与者募集のご案内

将来、県内の医療機関等で一定期間、医師として勤務することを返還免除条件に、医学生に対し修学資金を貸与します。

#### 応募資格

- 次の(1)又は(2)のいずれかに該当する方  
(※新1年生は、受験生又は合格者)
- 茨城県外の大学の医学部に在籍する方で、次のいずれかに該当する方
    - 茨城県内の高等学校等を卒業(見込みを含む)した方
    - 茨城県内に居住する方の子
  - 筑波大学医学群医学類に在籍する方(※出身は問いません。)

#### 返還免除要件

大学卒業後、茨城県知事が指定する医療機関等で貸与期間と同じ期間勤務すること  
(※貸与期間が3年未満の場合は、勤務期間は3年となります。)

#### 貸与金額

月額150,000円(※H28以前入学者は、100,000円となります。)

#### 県への応募期間等

応募期間 平成30年3月1日(木)～3月15日(木)(当日必着)  
県面接日 平成30年3月23日(金)

詳しくは、「茨城県地域医療支援センター」ホームページをご覧ください。

## 茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療人材課内)  
TEL:029(301)3191

ホームページの  
QRコードはこちら▶

